

(別記様式)

令和8年度 府立桃山高等学校(定時制) 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階 ・ 実施段階)

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 「働きながら学ぶ」という定時制教育本来の意義・目的を正しく認識させ、自主的・計画的に学ぶ生徒を育成する。</p> <p>2 基本的な生活習慣の確立を図り、学業と仕事を両立できる生徒を育成する。</p> <p>3 基礎的・基本的な学習内容の定着とコミュニケーション力の向上を図る。</p> <p>4 指導内容、指導方法の工夫に努め、学習意欲を喚起し、教育効果を高める。</p>	<p>成果</p> <p>(1) 各学年・分掌間で連携を取り、安心・安全な学校作りに努めた。生徒会活動の主体的な取組により、多くの校内行事を成功に導くことができた。クラブ活動が活性化し、大会に出場する生徒が増加した。</p> <p>(2) 進路実現に向けて、「キャリア教育講演会」など、早い段階から進路指導の充実に努めた。また、各企業・機関と連携して指導を丁寧に行い、卒業年次生は社会性・責任感を醸成することで大きく成長した。</p> <p>(3) 特別支援会議の円滑な運営など保給部・特支コーディネーターを中心に組織的な特別支援教育の体制づくりができた。</p> <p>(4) ICT 担当からの効果的な情報発信により職場のDX化が進んだ。</p> <p>課題</p> <p>(1) 授業評価アンケートなどを活用し、授業改善を進める。基礎学力の定着及び基本的な生活習慣の確立を図り、希望進路の実現に向けたキャリア教育の充実に努める。昨年度試行した学年会を活用し、生徒の情報を共有し、個々の生徒の状況に応じた指導方法・内容等の工夫をさらに図る必要がある。</p> <p>(2) 安心・安全な学びの場を確保するため、問題行動等の未然防止を図るとともに、生徒の自尊感情や自己有用感を高めるための取組を一層充実させる必要がある。</p>	<p>1 卒業を目指し、高等学校で学ぶこと、並びに「働きながら学ぶ」ことの意義を理解させるとともに、学校生活に目標・目的を持たせることにより、学校生活への定着を図る。</p> <p>2 生徒が共に学び、助け合い、励まし合う集団の育成を目指して、生徒会活動を大切にしたい取組を進めるとともに、様々な学校行事の充実に努める。</p> <p>3 希望進路の実現に向けて、3年間・4年間を見通して、早期より、計画的にキャリア教育を推進する。</p> <p>4 発達支持的生徒指導の視点を持ち、課題予防的生徒指導に取り組むとともに基礎学力の定着と生活習慣の改善を図り、社会性や規範意識の涵養に努める。</p> <p>5 特別な支援を要する生徒については、外部機関と連携しながら、特別支援会議を中心として支援の内容を明確化、共有化して、適切な指導に努める。</p> <p>6 学年会の活用や家庭と丁寧な連携を図ることで、「個別最適化された指導」を推進する。</p> <p>7 継続して授業改善に取り組むとともに、探求的な学びを推進する。</p>

※ 評価について A…十分達成できた B…おおむね達成できた C…あまり達成できなかった D…ほとんど達成できなかった

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
生徒指導	平和で安全で楽しい学校作りに向けた取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各学年・各分掌との密接且つ組織的に連携する。 オリエンテーション等や日頃の関わりを活用して発達支持的生徒指導に努める。 問題行動が生じた場合には迅速且つ適切に対処する。 		
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒会と共に各行事を活性化させて、生徒一人ひとりが学校にいて楽しいと思えるようにする。 部活動を通じて人間関係を広げたり深めたりして、生徒一人ひとりが視野を広げることができる。 学校生活を通して、認められたり努力したりすることで自己肯定感を高められるように手助けをする。 		
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に即した教育課程の編成と実施 生徒の個に応じた適切な学習指導の実践 	多様な観点による学習評価の工夫や改善を図るとともに、教育課程についてさらに研究を深める。		
		生徒の学力や理解程度を的確に把握し、基礎・基本を踏まえ、粘り強い指導を実践する。 生徒の実態に応じてICT機器を活用することで、学習内容の定着とコミュニケーション能力の向上を図る。		
進路指導	生徒の希望進路実現に向けた取組の推進	生徒の進路意識を高めるため、キャリア教育を充実し、推進する。		
		生徒一人一人の希望進路を把握し、その実現に向けて、各学年や各分掌、外部機関と密に連携を図る。		
健康教育	心身ともに健康な基本的な生活習慣の確立に向けた取り組みの推進と、それが困難な生徒に対する支援。	発達支持的な指導の観点を重視し、生徒が心身ともに健康に発達する活動を支援する。 特に特別な支援を要する生徒に対し、特別支援コーディネーターを中心とした特別支援会議を有効に機能させ、各学年・各教科・各分掌、さらには外部機関等と密に連携を取りながら支援する。		
		外部の専門家を招いての学習会を複数回開催し、生徒が自身の心身の健康を良好に保つスキルを身につけさせる指導を行う。		
図書	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の利用を活性化させ、読書を通じて教養を広げ、心豊かな生徒の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 宣伝・広報活動を行い図書館活用の促進をする。 各教科や学年団、各部との連携を取り、図書館や視聴覚機材の活用を図る。 		
第1学年	中学校からの円滑な接続と安定した学校生活の確立」を最優先とし、基礎学力の定着、生活習慣の確立、自己肯定感の醸成を目指す。安心安全の観点から正しく学べる環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> 安定した学校生活と生活習慣の確立 基礎学力の向上と定着 情報共有、連携を密にする 		

第2学年	<ul style="list-style-type: none"> • 毎時間の授業を大切にし、意欲的に参加できるようにする。 • 多様性を認め合い、他人を思いやる心を育てる。 • 規範意識を持たせ、安心安全な学校生活を送れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 教員間で生徒の情報を共有し、個に応じた指導を行う。 • 人権学習などを通じて、他者や社会との関わりについて理解を深めさせる。 • 学校のルールについて繰り返し説明し順守させる。違反があった際は関係分掌や保護者等と連携を図り、迅速な対応を行う。 			
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> • 毎時の授業を大切にし、進級を目指す。 • 学校生活での役割やアルバイトなどの経験を積むことで自己理解を深め、進路目標を定める。 • 一人一人が集団の形成者であることを自覚し、充実した学校生活を目指す。 • 転入生を含む3卒生が卒業および希望進路を実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> • クラスを越えて情報共有を行い、学年部として生徒対応にあたる。 • 関係分掌や保護者との情報共有および連携に努める。 • アルバイトを奨励するとともに、学校行事などの機会になるべく多くの生徒に役割をもたせるようにして、自己理解を深める機会を作り、進路目標の設定につなげる。 			
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> • 学年集団として安全で安心して学べる楽しい学校生活を目指す。 • 成人としての自覚を持ち、卒業後の進路目標を定め、その実現に向けて取り組む 	<p>クラスを越えて生徒の情報を共有する。関係各部との連携、迅速な対応。保護者への説明、子どもに対する理解と協力を得る。</p> <p>早急に進路を意識できるよう声かけや情報提供をして、進路希望の方向性を持たせるようにする。自立できるように支援する。ルールを守り、行事を大切に、楽しく学校生活を送る</p>			
事務・施設	効果的な予算執行を実現するため、各分掌、教科等の要望を聞き取るとともに、生徒、教職員に寄り添った学校運営、教育活動の推進に寄与する。	<p>長寿命化改修工事を含め、校内の危険箇所、不具合箇所について、迅速に対応するとともに、生徒・教職員の安心・安全に向けた施設・設備の整備、充実を図る。</p> <p>ICT機器を中心とした教育環境整備に努め、生徒に効果的でより良い学びが保障できる教育環境を提供する。</p>			